

将来像 Vision 【10年後に勝山市が目指す『まちの将来像』】

- 目指すべき未来
- 実現したい未来 など

【高齢者と若年者の融合のまち】	少子高齢化に対応するためには、高齢者とその他の世代の融合が鍵となる。そのため、高齢者がいきいきと暮らせること、その他の世代(若年層)が高齢者とお互いに理解し合い、楽しく共存できることが必要。
【「生きる力」を養うまち】	学校教育の他、知育、食育、体育の他、安全教育や防災教育にも力を入れて、「生きる力」を育むことが重要。
【どの世代も安心して住めるまち】	いろいろな世代がそれぞれの価値観で幸せを感じることができるまちづくりを推進する。そのため、地域・家族・職場・団体など、それぞれの中でのつながりを大切にし、精神的な豊かさや幸福感を得られるよう、市民が自分の意志で参加して主体となる。
【過疎化、高齢化を見据えたコンパクトシティの実現】	来るべき過疎化、高齢化への備えとして、道路、上下水道のインフラの拡大を止め、縮小させることに主眼を置いた政策を推進。
【インバウンドを活用したサービス産業の創造】	インバウンドに注目した政策を実現し、他県、他市との差別化を図る。
【いつでも、どこでも、市民が行政に参画し、協働できるまち】	オープンデータを活用するとともに全ての分野でDXを導入しスマートシティを目指し、人口減少下において年代によるローテーションをスムーズに行い、切れ目のない政策を立案し実施していく体制を構築する。
【創造力を持つひとづくり】	将来、勝山市で活躍できる人材の育成を図る。
【やりたいことが実現できるまち】	一人一人の個性が発揮出来るように、やりたいことをまち全体でフォローする体制を構築。
【ジェラシックパーク】	恐竜というコンテンツを活かし、まち全体をジェラシックパーク化。

価値観 Value 【勝山市の強み】

- 大切にする価値
- 判断基準 など

●災害が少ない ●子育て支援の手厚さ ●健康寿命の長さ ●豊かな自然 ●インバウンドに関心が高い白山平泉寺 ●教育環境の充実 ●祭りなどの伝統行事

行動指針 Way 【将来像の達成に向けた取り組み】

- 基本的な視点
- 行動指針 など

●災害が少ないだけでなく、災害に強いまちづくりを推進し、都市計画、インフラ整備を行う。また、防災や、災害時にどう行動するかという教育、災害時の拠点や市民の安全確保にも力を入れられれば、市民の「生きる力」の強化にもつながる。

●市民が活動に参加することで、人のつながりの大切さを実感できる政策の推進。

●コンパクトシティの実現に向けて、今後30～40年の大枠の計画を策定し、宅地規制などで、インフラの拡大を防ぎ集約を進めていく。

●インバウンドを活用したサービス産業に向けて、ALTを活用し、情報発信や外国人の宿泊客誘致を進める。あわせて英語教育を充実させ、市民が英語力を向上し、将来的にインバウンド対応のサービス産業を生み出す。

●高齢者がいきいきと暮らせるためにも安心して長く働けること及び住みやすいまち作りが必要であり、そのために高齢者の就業機会の増大を図る。また、大型商業施設などの誘致を図り、若者から高齢者までの雇用創出を図る。

●多様性の推進。移住者をはじめ外国人など多様な人々にも寛容なまちづくり

●教育と防災への集中投資。教える側の人材バンクの設立や教育システムの確立、学びの場の整備等を推進する。これらの推進にあたって行政と民間事業者が協働することも重要。

●地域が持っている資源(人・土地・環境・歴史等)を有効に活用し、地域で解決できることは地域で解決する。

●高齢者が住みやすいインフラの整備・高齢者の健康、社会性の維持。

●豊かな自然とスマート化の共存したまちづくり。